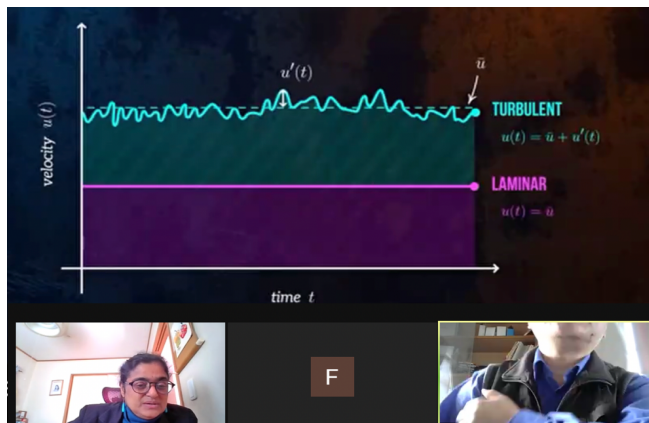


2020年度・芝浦工業大学と国立台北科技大学による機械工学に関する国際共同研究ワークショップin東京

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2021年02月22日 ～ 2021年02月24日	日本	台北科技大学	機械工学専攻 ・学部3年生 ・学部4年生 ・修士1年生 ・修士2年生	(芝浦工業大学) 学生25名、TA3名、教員5名 (台北科技大学) 学生12名、教員4名	RAJAGOPALAN UMAMAHESWARI (機械工学科) 二井 信行(機械工学科) 白井 克明(機械工学科) 諏訪 好英(機械工学科) 河野 貴裕(機械工学科)


図1 最終プレゼンテーションの様子

台湾の台北科技大学(NTUT)とZoomを使ったワークショップを実施しました。新型コロナウイルスの制限にもかかわらず、Zoomにてオンラインワークショップを成功させ、そこから多くの事を学ぶことができました。教員にとっても学生にとっても、これは国際的な研究交流のための新しい方法であるだけでなく、学部内で検討すべき有効なツールとなるでしょう。私たちは、教員のためのFD(ファカルティ・ディベロップメント)を実施していますが、このプラットフォームは異なる研究室の学生が研究会を開き、意見を交換してお互いのスキルや知識を向上させるツールになると思いました。

学生たちはバーチャルメディア上で会話しているので、オンライン環境への抵抗感が少なく、学生たちが自分のスピーチや交流のスキルを試すための貴重なプラットフォームになると感じました。対面での交流に比べて、金銭的にもこのようなバーチャルな交流から多くの利益を得ることができます。もちろん、対面での交流では学生を新しい環境や実際の交流に導くという利点がありますが、それは新型コロナウイルスの感染拡大が収まった後に必要になります。それでもオンラインでの交流は、お互いの国際的な協力関係や地位を拡大するための貴重なツールとなるでしょう。終了後のアンケートでは、SITとNTUTの両方からの参加者から、このイベントに対する高い評価と満足度が得られました。来年度、2022年2月末までに可能であれば、オンラインと対面式の両方のイベントを開催することを計画しています。


図2 RAJAGOPALAN先生プレゼン資料

図3 gPBLのオープニング